

フランス・アンボワーズ市に「諏訪通り (Rue de Suwa)」が開通 ～諏訪市・アンボワーズ市姉妹都市提携 25 周年記念式典報告～

パリ事務所

クレアパリ事務所では、6 月 24 日にフランス・アンボワーズ市において開催された、同市との姉妹都市提携 25 周年記念式典に参加した諏訪市から、式典の様子などの報告をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

1. 姉妹都市交流 25 周年

長野県諏訪市とアンボワーズ市¹は、高島城とアンボワーズ城という両市を代表する「城」をもつ城下町で文化的都市という共通点から、1987 年に姉妹都市を提携して以来、四半世紀にわたり相互交流を行ってきました。

両市交流 25 周年に当たる本年、アンボワーズ市内に造成した新興住宅街の中に、アンボワーズ市の姉妹都市である世界 6 都市の名前を「通り」の名前とするため、諏訪市の山田勝文市長及びアンボワーズ市のクリスチャン・ギュオン (Christian Guyon) 市長により、6 月 24 日 (日) に開通 (命名) 式が執り行われました。



2. 「諏訪通り (Rue de Suwa)」 開通 (命名) 式



「諏訪通り」が開通した新興住宅街は、アンボワーズ市の中心市街地から車で 5 分ほど離れた場所に位置し、市街地を見下ろすことができる小高い丘に約 250 戸分の分譲がされており、現在その約半数に新築された住宅が立ち並んでいます。この住宅街の中を走る「諏訪通り」は、幅員 8m、全長 300mほどでした。

開通式には、両市の関係者、議員、近隣の住民など約 50 名が参加しました。
「諏訪通り」の標識前で握手する両市長
両市長は、「諏訪通り (Rue de Suwa)」の名が刻まれた標識にかかった白い布を一緒

にとり、その標識の前で固く握手、その後、参加者全員で、新しく命名された「諏訪通り」を歩きながら談笑し、交流を深めました。

3. 姉妹都市締結 25 周年記念式典

開通式会場からアンボワーズ市庁舎博物館に移動して、25 周年記念式典が行われました。

式典のあいさつでクリスチャン・ギュオン市長は、「両市間の距離は離れているが、今は様々な手段があり、その障壁を乗り越えることができる。なによりも、今日、お互いに顔を合わせ、握手したことが姉妹都市交流の新たな 1 ページになることを期待している。今日開通した「諏訪通り」が日仏の友好の証しとして、両市交流の不滅の証しとして、多くの市民に知らせることができるだろう。」と述べられました。

また、諏訪市の歴史にも触れ、「お互いの都市を知ることが交流を強固なものにする礎となるものであり、今後も諏訪市との友好関係を良好なものにしていきたい。」と述べられました。



記念品の交換（法被とオルゴールを贈る）

ました。

また、在パリ日本大使館の白水一等書記官からは、「日本とフランスの間で 48 組の友好・姉妹都市があるが、25 年の歴史の長さやお互いに共通点のある都市間の交流は数少ない。この交流が 50 年、100 年以上続いていくことを祈念している。昨年の震災の際には、多くのフランス国民から励ましの言葉をもらい、フランスと日本との交流が表面的で



式典会場においてあいさつをされる

ギュオン・アンボワーズ市長（右から 3 人目）

続いて、山田市長は、「我々が生活している諏訪市が一番素晴らしい都市であると自負していたが、今日、アンボワーズ市の街を実際に歩いてみて、アンボワーズ市の街には、歴史があり、諏訪市よりも素晴らしい都市であると感じた。諏訪市には、浄化が進む諏訪湖や豊富な温泉、フランスでも人気が出てきた日本酒などたくさんいいものがある。両市の間では、しばらくの間、交流が停滞していたが、今日の式典を契機に友好の絆を深めていきたい。」と述べられ

はなく、心と心がつながった交流であると感じた。」とのあいさつがありました。

その後、両市において記念品の交換をし、用意されたシャンパンにより参列者個々が互いに乾杯をし、式典を祝いました。

4. 今後に向けて

諏訪市とアンボワーズ市とは、姉妹都市を締結してから 25 年が経過しましたが、締結



アンボワーズ城

当時から、距離が遠いこと、英語でのコミュニケーションが取りづらいことなどにより、徐々に交流の機会が減ってきていました。

しかし、今回アンボワーズ市の皆さんの手厚い歓迎を通じてお互いに顔を合わせ握手することこそ、言語を越えて大切なコミュニケーションの手段であることを再認識しました。昨年の震災の際に、フランス在住の日本人には、フランス人から多くの励ましの声が掛けられ、心底心配してくれたことを聞き、ともしれば経済（営利）目的に偏りがちな近年の

国際交流の在り方をもう一度考え直していく必要があるのではないかと思います。

両市を繋げる共通点である「城」には、歴史的な背景の違いや大小の規模の差がありますが、お互いの都市のことを思い、考える気持ちを持ち続けることが姉妹都市交流を続けていくための最も大切な要素であると思います。

フランス国内にできた「諏訪」と名のつく通り。その通り沿いに住宅が立ち並び、そこで生まれた子どもたちが、いつしか、通りの名前である「諏訪」を訪れ、交流を深める。そんな光景を近い将来見ることができれば素晴らしいと思います。

長野県諏訪市総務部総務課
課長補佐 松木 克之

¹ アンボワーズ市 (Amboise) :フランス中部、サントル州アンドル・エ・ロワール県のコミューンで、人口は 12,505 人 (2009 年)。市内には、ロワール渓谷としてユネスコ世界遺産に登録されているアンボワーズ城や画家レオナルド・ダ・ヴィンチが晩年を過ごしたクロ・リュセ城があり、多くの観光客が訪れる。